

令和3年度  
島根県学力調査  
結果概要

令和4年2月18日（金）  
島根県教育委員会

# I 実施概要

## 1 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

## 2 実施日

令和3年12月7日(火)・8日(水)

## 3 実施校数

公立小学校（県立特別支援学校小学部を含む） 199校  
公立中学校（県立特別支援学校中学部を含む） 97校  
義務教育学校 2校  
（国立義務教育学校及び私立中学校は不参加）

## 4 実施学年・教科・人数

			教科に関する調査			意識調査	県全体の 在籍者数 (R3.9.1現在)
			国語	算数 数学	英語		
小学校	第5学年	実施人数	5,430	5,434		5,437	5,678
		割合(%)	95.6	95.7		95.8	
	第6学年	実施人数	5,457	5,471		5,466	5,723
		割合(%)	95.4	95.6		95.5	
中学校	第1学年	実施人数	5,117	5,118	5,118	5,117	5,552
		割合(%)	92.2	92.2	92.2	92.2	
	第2学年	実施人数	5,282	5,296	5,291	5,288	5,732
		割合(%)	92.1	92.4	92.3	92.3	

## 5 県調査の考え方・特徴

(1) 全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）と島根県学力調査（以下「県調査」という。）をつなげたPDCAサイクルの構築を推奨している。

- ①全国調査で明らかになった課題を改善するための指導の取組を、県調査で検証するPDCAサイクルを確立し、指導の改善を効果的に進める。
- ②当年度の指導の状況について客観的に評価し、個別指導を充実することにより、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるようにする。

(2) 教科に関する調査

フォローアップ機能の充実を図るため標準学力調査を活用する。

(3) 生活・学習に関する意識調査

標準学力調査の質問項目及び県独自に設定した質問項目について調査する。

(4) 課題をとらえやすい帳票とWeb評価支援システムの提供

各学校が自校の課題をとらえやすいよう帳票の各種データ表示を工夫するとともに、Web上で結果データを分析することができるWeb評価支援システムを提供する。

(5) 子どもたちの事後学習を促すための個人帳票とフォローアップ教材の提供

結果を記載した個人帳票に加え、事後学習に活用できるフォローアップ教材を提供する。

## 6 用語

○平均正答率 : 全設問の正答率の平均値。

・島根県値 : 県内の受検者の正答率の平均値。

・全国値 : 受託業者が過去の実績をもとに、受検データから推定した値。

○領域 : 学習指導要領において、各教科の学習内容を系統的に示したもの。  
算数であれば「数と計算」「図形」など。

## 7 公表する調査結果（教育指導課ホームページにも掲載）

令和3年度島根県学力調査 結果概要 \*本資料

I 実施概要

II 教科に関する調査の結果

III 意識調査の結果概要

IV 今後の対応

## II 教科に関する調査の結果

○教科平均正答率とは、教科における全設問の正答率の平均値を表している。

島根県値：県内の受検者の正答率の平均値 全国値：受託業者が過去の実績をもとに、受検データから推定した値

### 【小学校国語】

#### 1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題） (％)

学 年		第5学年		第6学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		63.0	68.9	66.3	69.2
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	67.7	70.5	70.5	69.7
	書くこと	48.6	62.7	58.0	65.8
	読むこと	71.4	73.9	71.1	70.7
	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.9	73.7	66.7	70.7
	情報の扱い方に関する事項	56.7	64.9	68.9	70.1
	我が国の言語文化に関する事項	12.2	23.3	61.2	66.1

#### 【令和3年度全国調査の課題】

A 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。

B 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけることに課題が残る。

C 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することに課題がある。

#### 【今年度県調査の状況】

・教科平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。

・「書くこと」について、第5学年、第6学年とも全国値を下回った。

① 目的や意図に応じて話の内容をとらえることはほぼ定着している。

② 「読むこと」について、描写を基に登場人物の様子を捉えたり、叙述を基に文章の内容を捉えたりすることは概ねできている。

③ 「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」ことについて、第6学年は改善傾向にあるといえる。・・・B

① 「書くこと」において、指定された文字数や段落構成で書くことに課題がある。・・・A

② 「書くこと」において、意見の理由を明確にして書いたり、予想される反論やそれに対する自分の意見を書いたりすることに課題がある。

③ 第5学年においては、漢字の由来についての理解ができていない。

④ 複数の情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書くことに課題がある。

#### 2 比較的できている問題

##### 第5学年（1）

[問題番号] 4 (1) 「読むこと」 ☞②  
 [島根県値 84.3%]  
 [全国値 84.7%]

[問題内容]

文学作品の文章表現から登場人物の心情を読み取る。

[出題のねらい]

登場人物の様子について、描写を基にとらえる力を見る。

##### 第6学年（1）

[問題番号] 1 (3) 「話すこと・聞くこと」 ☞①  
 [島根県値 70.1 %]  
 [全国値 65.2 %]

[問題内容]

インタビューした内容を盛り込んで話す。

[出題のねらい]

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。

### 第5学年（2）

〔問題番号〕 5（2）「読むこと」 ㊦②	
〔島根県値〕 85.7%	
〔全国値〕 86.0%	
〔問題内容〕	
選択肢から、説明文の内容に適した文を選ぶ。	
〔出題のねらい〕	
叙述を基に文章の内容を捉えることができるかをみる。	

### 第6学年（2）

〔問題番号〕 5（3）「読むこと」 ㊦③	
〔島根県値〕 82.5%	
〔全国値〕 80.1%	
〔問題内容〕	
文章中の情報を抜き出して図式化したメモに追記する。	
〔出題のねらい〕	
情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する力をみる。	

## 3 課題のある問題

### 第5学年（1）

〔問題番号〕 7 「書くこと」 ㊦①	
〔島根県値〕 50.6%	
〔全国値〕 74.4%	
〔問題内容〕	
文字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。	
〔出題のねらい〕	
指定された長さで文章を書くことができるかをみる。	

### 第6学年（1）

〔問題番号〕 7 「書くこと」 ㊦②	
〔島根県値〕 75.5%	
〔全国値〕 84.0%	
〔問題内容〕	
文字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。	
〔出題のねらい〕	
自分の意見とその理由を明確にして書くことができるかをみる。	

### 第5学年（2）

〔問題番号〕 3（1）「我が国の言語文化に関する事項」 ㊦③	
〔島根県値〕 12.2%	
〔全国値〕 23.3%	
〔問題内容〕	
選択肢から形声文字の漢字を選ぶ。	
〔出題のねらい〕	
漢字の由来について理解しているかをみる。	

### 第6学年（2）

〔問題番号〕 6（2）「情報の扱い方に関する事項」 ㊦④	
〔島根県値〕 55.4%	
〔全国値〕 60.1%	
〔問題内容〕	
複数の情報をまとめ、決まった文字数内で書く。	
〔出題のねらい〕	
情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書くことができるかをみる。	

## 4 今後の指導のポイント

### （1）「書くこと」においては、児童の主体的な活動を意識して指導を行う。

- ・意見文などの作文指導においては、まず教師が児童の姿を想定して作文を書き、指導と評価のポイントや児童がつまづきそうな部分を把握する。
- ・「説得力のある意見文を書くためにはどのような工夫が必要だろう」など、児童が目標をもって課題に取り組める場面を設定するとともに、モデルとなる意見文の構成や表現の工夫を読み取ることで、目標とする意見文の具体をイメージさせる。構成・表現のポイントをチェックリストやルーブリックにまとめることも有効である。
- ・実際に書いた意見文を、構成・表現のポイントを参考にしながら友達や教師のアドバイスをもとに、よりよい意見文になるまで粘り強く書き直す活動を行う。

### （2）家庭学習とのつながりを重視した授業づくりを工夫する。

- ・家庭学習において既習の漢字を形声文字など成り立ちごとに分類し、それを基に授業で友達とクイズを出し合い、説明する活動を行うなどして、概念を獲得できるようにする。
- ・文字数を指定したり段落構成を条件付けたりして読書記録や新聞記事に対する意見文などを書き、朝礼や授業の初めに紹介し合う時間をとるなどして、書く活動を習慣付ける。

## 【小学校算数】

### 1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (％)

学 年		第5学年		第6学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		58.9	63.8	66.1	72.6
領域別 平均正答率	数と計算	57.2	61.8	70.4	76.7
	図形	70.3	75.1	67.7	72.2
	変化と関係	52.9	58.8	42.0	54.4
	データの活用	55.7	62.3	-	-

#### 【令和3年度全国調査の課題】

- A 速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。  
 B 図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。

#### 【今年度県調査の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。
  - ・領域別平均正答率の島根県値も、第5学年、第6学年ともにすべての領域について全国値を下回った。
- ① 計算問題は、概ね定着が図られている。
  - ② 全国調査で全国との差が最も大きかった「図形」の正答率が、本調査では依然として低いものの、他の領域と比べ、その差が最も小さくなった。
- ❶ 比の理解や比を使った問題に課題がある。  
 ❷ 小数、分数の意味理解について課題がある。・・・A  
 ❸ 第5学年においては、体積を求める問題に課題がある。・・・B

### 2 比較的できている問題

#### 第5学年（1）

〔問題番号〕 4（4） 「数と計算」	☞①
〔島根県値〕	85.6％
〔全国値〕	84.9％
〔問題内容〕 分数のたし算をする。	
〔出題のねらい〕 異分母分数のたし算で、通分をする計算ができるかをみる。	

#### 第6学年（1）

〔問題番号〕 11（1） 「図形」	☞②
〔島根県値〕	89.3％
〔全国値〕	88.5％
〔問題内容〕 点対称な図形の対応する辺を選ぶ。	
〔出題のねらい〕 点対称な図形の対応する辺について理解しているかをみる。	

#### 第5学年（2）

〔問題番号〕 13（2） 「図形」	☞②
〔島根県値〕	65.0％
〔全国値〕	65.0％
〔問題内容〕 四角形の角の大きさを求める。	
〔出題のねらい〕 四角形の4つの角の和を理解し、3つの角の大きさから残りの角の大きさを求めることができるかをみる。	

#### 第6学年（2）

〔問題番号〕 11（2） 「図形」	☞②
〔島根県値〕	92.1％
〔全国値〕	89.7％
〔問題内容〕 線対称な図形をかく。	
〔出題のねらい〕 線対称な図形について理解し、作図することができるかをみる。	

### 3 課題のある問題

#### 第5学年（1）

〔問題番号〕 6	「数と計算」	👉②
	[島根県値]	49.0%
	[全国値]	60.8%
〔問題内容〕		
小数の乗法の計算式にあてはまる数を書く。		
〔出題のねらい〕		
小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解しているかをみる。		

#### 第6学年（1）

〔問題番号〕 4	「数と計算」	👉②
	[島根県値]	58.7%
	[全国値]	73.3%
〔問題内容〕		
分数の除法の計算の仕方を考えるときに使われたわり算の性質を選ぶ。		
〔出題のねらい〕		
除法の性質を用いて、分数の除法ができるかをみる。		

#### 第5学年（2）

〔問題番号〕 11	「図形」	👉③
	[島根県値]	50.4%
	[全国値]	64.2%
〔問題内容〕		
1辺の長さが示されている立方体の体積を求める。		
〔出題のねらい〕		
立方体の体積を求めることができるかをみる。		

#### 第6学年（2）

〔問題番号〕 16（3）	「変化と関係」	👉①
	[島根県値]	26.8%
	[全国値]	41.7%
〔問題内容〕		
比を使って写真の横の長さを求め、その求め方を説明する。		
〔出題のねらい〕		
比を使って長さを求め、説明することができるかをみる。		

### 4 今後の指導のポイント

#### （1）児童一人一人が自分なりの表現で問題を捉える活動の充実を図る。

- ・四則計算の学習においては、数量及びその関係を捉えやすい図などに表現して演算決定をさせる。立式の際には、その思考過程において図を含む複数の理由（数直線図、線分図、言葉の式など）を用いて考えさせる。
- ・小数、分数などの計算の仕方につまずきが見られる場合においても、図を含む複数の理由（数直線図、線分図、言葉の式など）を用いて理解を深めることが有効である。

#### （2）自分の考えを表現し、伝え合う活動の充実を図る。

- ・計算の解を導き出すことだけにとどまらず、求められた数がどんな数量を表しているのか、なぜそのように考えたのかという理由も含め、表現させるようにする。
- ・児童が考えた計算の仕方を2つ以上取り上げ、図や言葉、式を用いて理由も含め、計算の仕方を相手に説明するなどの活動を通して分かり合うようにする。

#### （3）図形の構成要素に着目して考察する活動の充実を図る。

- ・面積や体積の求め方を考える学習においては、見取り図などを用いて考えさせ、その求め方を言葉や式で表現させるようにする。その際、図形の構成要素に着目させ、算数用語を適切に用いるようにする。

## 【中学校国語】

### 1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (％)

学 年		第 1 学年		第 2 学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		58.9	61.4	60.3	62.0
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	66.0	66.8	55.3	57.3
	書くこと	51.2	57.6	49.6	59.7
	読むこと	59.3	59.4	54.6	53.6
	言葉の特徴や使い方に関する事項	62.4	64.2	74.9	75.5
	情報の扱い方に関する事項	47.0	47.7	58.4	59.5
	我が国の言語文化に関する事項	57.5	59.0	57.1	55.0

#### 【令和3年度全国調査の課題】

- A 段落相互の関係を理解することに課題がある。また、意見の根拠を明確にするための文末表現の工夫を捉えることに課題がある。
- B 文章に表れているものの見方や考え方を捉えることや、引用した表現から登場人物の心情や行動について考えること、また、自分の考えを具体的に書くことに課題がある。

#### 【今年度県調査の状況】

- ・ 教科平均正答率の島根県値は第1学年では全国値を下回るが、第2学年では全国値並みである。
  - ・ 各領域について、「書くこと」を除いて島根県値は全国値並みである。
- ① 文学的文章や説明的文章の内容を読み取ることは全国値並みである。
- ② 第1学年では、ことわざについての理解は正答率が高い。
- ③ 第2学年では、歴史的仮名遣いについての理解は正答率が高い。
- ❶ 指定された条件で自分の考えを明確にして書くことに課題が見られる。・・・ B
- ❷ 複数の情報の関係について理解することにやや課題が見られる。
- ❸ 第1学年では、小学校及び第1学年までに学習した漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題が見られる。

### 2 比較的できている問題

#### 第1学年 (1)

〔問題番号〕 3 (4) 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ㊦②
〔島根県値〕 74.8%
〔全国値〕 71.2%
〔問題内容〕 ことわざの使い方として正しいものを選ぶ。
〔出題のねらい〕 ことわざの意味を理解しているかをみる。

#### 第2学年 (1)

〔問題番号〕 3 (3)①「我が国の言語文化に関する事項」 ㊦③
〔島根県値〕 61.7%
〔全国値〕 56.2%
〔問題内容〕 古典の文章中の言葉を現代仮名遣いに直す。
〔出題のねらい〕 歴史的仮名遣いについて理解しているかをみる。



### 第1学年(2)

[問題番号] 4 (1) 「読むこと」 ㊦①  
 [島根県値] 62.2%  
 [全国値] 60.5%

[問題内容]

文章の内容として正しいものを選ぶ。

[出題のねらい]

文章の内容について叙述を基に捉えることができるかをみる。

### 第2学年(2)

[問題番号] 3 (3) ②「我が国の言語文化に関する事項」 ㊦③  
 [島根県値] 81.5%  
 [全国値] 78.8%

[問題内容]

古典の文章中の言葉を現代語に訳す。

[出題のねらい]

現代語訳を手がかりに古典を読むことができるかをみる。

## 3 課題のある問題

### 第1学年(1)

[問題番号] 2 (2) ③「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ㊦③  
 [島根県値] 38.5%  
 [全国値] 44.1%

[問題内容]

かなを漢字に直して書く。

[出題のねらい]

小学校で学習した漢字を正しく書くことができるかをみる。(※課題が見られたのは3問中1問)

### 第2学年(1)

[問題番号] 6 (1) 「書くこと」 ㊦②  
 [島根県値] 72.1%  
 [全国値] 75.7%

[問題内容]

グラフの内容をまとめて表現する。

[出題のねらい]

情報と情報との関係について理解し、集めた材料を整理して、伝え合う内容を検討することができるかをみる。

### 第1学年(2)

[問題番号] 7 「書くこと」 ㊦①  
 [島根県値] 41.7%  
 [全国値] 52.5%

[問題内容]

文字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

[出題のねらい]

自分の考えを明確にして書くことができるかをみる。

### 第2学年(2)

[問題番号] 7 「書くこと」 ㊦①  
 [島根県値] 49.6%  
 [全国値] 59.4%

[問題内容]

文字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

[出題のねらい]

自分の考えを明確にして書くことができるかをみる。

## 4 今後の指導のポイント

### (1) 指定された条件で自分の考えを明確にして書くための学習過程を工夫する。

- ・「何のために(目的意識)」、「誰に対して(相手意識)」を明確にした言語活動を設定する。
- ・自分の考えや理由、根拠として用いる情報について思考ツールや情報カード等を使って分類・整理したり、関連付けたりする学習活動を取り入れ、自分が伝えたいことがより伝わる段落構成や表現を意識させる。
- ・自分が選んだ根拠の明確さなどについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見だし、繰り返し推敲することで文章の精度を高めるようにする。

### (2) 具体的な操作活動を通して、複数の情報の関係を明確に整理できるようにする。

- ・集めた情報の中から、囲みや矢印などの記号を用いて、必要な情報を取り出したり関係付けたりして整理する学習活動を取り入れる。

### (3) 自主的な学習を蓄積し、活用することで既習の漢字や語彙を定着させる。

- ・既習の漢字を語彙手帳やノート、端末上の語彙フォルダに用例とともに蓄積する。
- ・蓄積した漢字等の情報を国語科だけでなく、他教科や総合的な学習の時間等の学習や家庭学習など、日常生活で活用する。

## 【中学校数学】

### 1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題)

(%)

学 年	第 1 学年		第 2 学年		
	島根県値	全国値	島根県値	全国値	
教科平均正答率	53.1	57.0	51.8	55.9	
領域別 平均正答率	数と式	52.1	55.5	45.6	50.1
	図形	67.8	73.5	66.3	65.6
	関数	50.3	53.0	51.5	56.7
	データの活用	-	-	-	-

#### 【令和3年度全国調査の課題】

A 「数と式」において、事象の特徴を数学的に説明することに課題がある。

B 「図形」において、根拠を基に説明することに課題がある。

#### 【今年度県調査の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第1学年、第2学年ともに全国値を下回った。
- ・領域別平均正答率は、第2学年の「図形」の島根県値は全国値並みであったが、その他はすべての領域について全国値を下回った。

① 第1学年の比例と反比例の基礎的な内容については概ね定着している。

② 第2学年の「図形」の島根県値は、全国値並みであった。

③ 「数と式」の基礎的な内容は概ね定着している。

❶ 第1学年においては、文字式の意味理解について課題がある。

❷ 第2学年においては、一次関数全般についての理解・数学的に説明することが十分とはいえない。・・・A

### 2 比較的できている問題

#### 第1学年(1)

〔問題番号〕 11 (1) 「関数」 ☞①
〔島根県値〕 60.5%
〔全国値〕 57.1%
〔問題内容〕 反比例の関係を表した表を選ぶ。
〔出題のねらい〕 反比例の式から、 $x$ と $y$ の関係を表した表 を選ぶことができるかをみる。

#### 第2学年(1)

〔問題番号〕 13 (2) 「図形」 ☞②
〔島根県値〕 64.8%
〔全国値〕 62.5%
〔問題内容〕 多角形の外角の和を使って、角の大きさを求める。
〔出題のねらい〕 多角形の外角の和について理解し、角の 大きさを求めることができるかをみる。

#### 第1学年(2)

〔問題番号〕 16 (1) 「数と式」 ☞③
〔島根県値〕 49.0%
〔全国値〕 49.2%
〔問題内容〕 指示された通りに計算をする。
〔出題のねらい〕 指示通りに順を追って計算したときの答 えを求めることができるかをみる。

#### 第2学年(2)

〔問題番号〕 15 (1) 「図形」 ☞②
〔島根県値〕 56.9%
〔全国値〕 52.1%
〔問題内容〕 証明にある仮定とは、どのような内容か 選ぶ。
〔出題のねらい〕 仮定の指す内容について理解しているか をみる。

### 3 課題のある問題

#### 第1学年(1)

〔問題番号〕 4 (4)	「数と式」	👉①
	[島根県値 40.4%]	
	[全国値 49.6%]	
〔問題内容〕		
一次式の減法をとく。		
〔出題のねらい〕		
一次式の減法ができるかをみる。		

#### 第2学年(1)

〔問題番号〕 7	「関数」	👉②
	[島根県値 61.1%]	
	[全国値 70.8%]	
〔問題内容〕		
一次関数のグラフをかく。		
〔出題のねらい〕		
一次関数の式から、グラフをかけるかをみる。		

#### 第1学年(2)

〔問題番号〕 14 (3)	「図形」	
	[島根県値 46.6%]	
	[全国値 57.9%]	
〔問題内容〕		
三角形を回転移動させてぴったり重なるには、何度回転移動させればよいのか選ぶ。		
〔出題のねらい〕		
三角形を回転移動させた角度について理解しているかをみる。		

#### 第2学年(2)

〔問題番号〕 9 (1)	「関数」	👉②
	[島根県値 39.3%]	
	[全国値 50.1%]	
〔問題内容〕		
x軸に平行な直線の式を選ぶ。		
〔出題のねらい〕		
x軸に平行な直線の式を選ぶことができるかをみる。		

### 4 今後の指導のポイント

#### (1) 数学的な表現を用いて問題を捉え、説明する学習場面の充実を図る。

- ・問題から捉えたことを言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する活動を日頃から積み重ねていく。さらに他者に説明することで、一人では気付かなかった新しい視点を得たり、根拠を明らかにしたりすることができる。
- ・文字を用いた式の計算で、項の意味に基づいて計算することや計算の法則が保たれていることなど、数の計算と関連付けて説明ができるようにすることを大切にす。また、式を図で表したり、誤答を取り上げたりしながら繰り返し意味理解を深めていけるようにする。

#### (2) 小学校算数科との系統を重視する。

- ・小学校では、どのように指導されて中学校につながっているかを理解し、どんな資質・能力を育てていくのかを明確にする。生徒が小学校で学んだ内容をどこまで理解できているかを把握して指導する。

#### (3) 図形の性質や関係を見だし、表現する活動の充実を図る。

- ・直線の位置関係、対応する辺や角、図形の合同などに基づいて考察し、数学的な表現を用いて筋道を立てて説明させる。また、1つの図形を基にしてそれを移動することによって敷き詰めを行い、模様をつくることも考えられる。

## 【中学校英語】

### 1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (%)

学 年		第 1 学年		第 2 学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		52.7	55.2	44.3	46.9
領域別 平均正答率	聞くこと	56.4	58.9	51.7	55.9
	話すこと	-	-	-	-
	読むこと	54.9	57.4	46.2	49.1
	書くこと	45.7	48.4	33.9	34.4

#### 【令和2年度島根県調査の課題】

A対話の流れに沿って英文を書いたりするなど、場面や状況に応じて既習の語彙や文法を活用し英文を書く力

B聞いたり読んだりした内容をもとに思考・判断したうえで、既習の語彙や文法を活用し場面や状況に応じた英文を書くなど領域を統合して活用する力

#### 【今年度県調査の状況】

- ・県平均正答率の島根県値は、第1学年、第2学年とも全国値を下回った。
  - ・領域別に見ると、第2学年では、「書くこと」の平均正答率は全国値並みであったが、「聞くこと」と「読むこと」の平均正答率は全国値を下回った。
  - ・第1学年では、全ての領域において全国値を下回った。
- ①第1学年「聞くこと」においては、英文を聞いて情報を正確に聞き取ったり、まとまりのある英文を聞いて話の概要を聞き取ったりする力が概ね定着している。
- ②第2学年「読むこと」においては、短い対話文の情報を読み取り、その内容を理解する力が概ね定着している。
- ③「書くこと」においては、基本的な文の語順を理解して正確に書く力は全国値並みであった。
- ①対話の流れに沿って英文を書いたりするなど、場面や状況に応じて既習の語彙や文法を活用し英文を書く力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。・・・A
- ②聞いたり読んだりした内容をもとに思考・判断したうえで、既習の語彙や文法を活用し場面や状況に応じた英文を書くなど領域を統合して活用する力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。・・・B
- ③第2学年「聞くこと」において、対話の内容を聞き、その意味を理解して適切に応答する力に課題がある。

### 2 比較的できている問題

#### 第1学年(1)

[問題番号] 3 「聞くこと」	①
[島根県値]	96.0%
[問題内容]	[全国値 96.7%] まとまりのある英文を聞いて、話の流れに合うように場面絵を並びかえる。
[出題のねらい]	英文を聞いて、話の概要を捉える力をみる。

#### 第2学年(1)

[問題番号] 6 (2) ① 「読むこと」	②
[島根県値]	74.2%
[問題内容]	[全国値 66.1%] 短い対話文が成立するように、英文内の空欄に適する語を選択肢から選ぶ。
[出題のねらい]	対話文を読み、内容を正しく理解する力をみる。

#### 第1学年(2)

[問題番号] 8 (4) 「書くこと」	③
[島根県値]	71.4%
[問題内容]	[全国値 68.6%] 与えられた単語を並べ替えて、正しい英文を書く。
[出題のねらい]	基本的な文の語順を理解して正確に書く力をみる。

#### 第2学年(2)

[問題番号] 9 (3) 「書くこと」	③
[島根県値]	33.7%
[問題内容]	[全国値 23.2%] 与えられた単語を並べ替えて、正しい英文を書く。
[出題のねらい]	基本的な文の語順を理解して正確に書く力をみる。

### 3 課題のある問題

#### 第1学年(1)

〔問題番号〕 4 「聞くこと」「書くこと」 ②

[島根県値 16.4%]

[全国値 20.7%]

〔問題内容〕

対話の内容を聞き取り、資料の内容をもとに対話の流れにそった返答を3語以上の英文で書く。

〔出題のねらい〕

領域統合型の問題において、対話の内容を聞いて理解し、話の流れに合うように既習の語彙や文法を活用し英文を書く力をみる。

#### 第1学年(2)

〔問題番号〕 9 (2)

「読むこと」「書くこと」 ①②

[島根県値 34.7%]

[全国値 36.7%]

〔問題内容〕

対話文を読み、対話が成り立つように空欄に入る適切な英文を3語以上の1文で書く。

〔出題のねらい〕

領域統合型の問題において、対話の内容を読んで理解し、話の流れに合うように既習の語彙や文法を活用し英文を書く力をみる。

#### 第2学年(1)

〔問題番号〕 8 (4)

「読むこと」「書くこと」 ②

[島根県値 8.1%]

[全国値 10.1%]

〔問題内容〕

まとまりのあるメール文を読み、返信するメール文の空欄に3語以上の語を用いて1文を書く。

〔出題のねらい〕

領域統合型の問題において、まとまりのある英文を読んで理解し、既習の語彙や文法を活用し適切に応じる英文を書く力をみる。

#### 第2学年(2)

〔問題番号〕 2 (1)

「聞くこと」 ③

[島根県値 59.7%]

[全国値 69.9%]

〔問題内容〕

対話を聞き取り、その対話に続く1文を選択肢から選ぶ。

〔出題のねらい〕

対話の内容を聞き、その意味を理解して適切に応答する力をみる。

### 4 今後の指導のポイント

#### (1) 既習の語彙や表現を活用し、思考・判断・表現する言語活動を繰り返し行う。

- ・言語活動は、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を基本とし、4技能5領域について、生徒がコミュニケーションの目的や場面、状況等を意識して行うことができるように工夫する。
- ・「文法はコミュニケーションを支えるもの」であることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成するうえでの必要性や有用性を実感させたり、知識を活用させたり、生徒の気づきを促したりするなど、言語活動と関連付けて指導することが重要である。  
↳領域別の具体的な言語活動の例は、学習指導要領解説 (pp. 54-69) を参照

#### (2) 複数の領域を統合した領域統合型の言語活動を設ける。

- ・聞いたり読んだりした内容について、自分の考えや気持ち、意見や感想を話したり書いたりして、伝え合う領域統合型の言語活動を設ける。
- ・聞くことが目的をもって行う能動的な活動であることを念頭におき、話し手がどのような人で、何を求めているか、どのような応答がふさわしいのか考えさせ、内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させることが重要である。また、日頃から生徒と英語のやり取りをする中で実際に聞いて応じる活動を積み重ね、体験的に身に付けさせていくことも必要である。
- ・読んだ内容について、自分の考えを整理して述べるができるようにする具体的な指導としては、次のような言語活動が考えられる。①教科書等に取り上げられている説明文を読み、書き手の主張を数文でまとめる。②その話題に対して、自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったりする。③活動の合間に、自分の使った英語を振り返り、表現の正確さを高める。④ペアやグループで伝え合ったことを、最終的な自分の意見として簡潔に書いてまとめる。

【参照】「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書 (国立教育政策研究所)」

「学習指導の改善・充実に関する指導資料<中学校英語>令和3年4月 (国立教育政策研究所)」

### Ⅲ. 意識調査の結果概要

#### 1 しまねの学力育成推進プランの達成状況を把握する質問項目

##### (1) 授業の質の充実

- ①学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
- ②(国語)話し合いで、自分の考えを積極的に話している。
- ③知りたいことや疑問に思ったことを自分で調べたり、友だちや先生に聞いたりして解決しようとしている。
- ④授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。
- ⑤(算数・数学)問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている。

##### 【令和3年度全国調査時の課題】

- 話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたり、課題解決に向け、自分で考え取り組んだりすることができていると回答している児童生徒が増えているが、教科の結果につながっていない。話し合う内容の質の高まり、話し合い後に個の考えをまとめる時間を確保するなどの取組を進める必要がある。
- 単位時間後の成長した姿や学習内容が生かされる場面を想起できる授業を進めることが重要である。
- 教科の学習が他教科や日常の課題解決に生かせるよう、各学校において発展的な学習の指導の重要性が意識されてきている。引き続き理解度に応じた課題に取り組む時間などを設定し、取組を進めていく必要がある。

##### (2) 家庭学習の充実

- ⑥学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日にどのくらい勉強をしますか。
- ⑦先生は家庭学習の仕方についてアドバイスしたり、やってきた宿題にコメントをしてくれたりしてくれる。
- ⑧自分で勉強の計画を立てて、勉強している。
- ⑨家の人から言われなくても、進んで勉強している。
- ⑩算数・数学の宿題は、きちんとしている。

##### 【令和3年度全国調査時の課題】

- 学校の授業時間以外の平日(月曜日～金曜日)1日あたりの学習時間を全国と比較すると、小学校は1時間以上勉強する児童の割合は全国平均並みであるが徐々に下がってきている。中学校は依然として差が大きいことから、家庭学習を意識した授業を展開することにより家庭学習の充実を図る必要がある。
- 家庭学習の課題の課し方について教職員間で共通理解を図り、児童生徒に家庭での学習方法を具体的にアドバイスするなど、学校として一体感をもった取組が進められている。児童生徒一人一人に応じた発展的な課題や補足的な課題の提示など進める必要がある。
- 家庭で、自分で計画を立てて勉強することができるように、見通しをもって学習に取り組むための計画表等を用意するなど、児童生徒の自ら学習を調整する力を伸ばす取組を進める必要がある。

##### (3) 地域に関わる学習の充実

- ⑪「総合的な学習の時間」では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる。
- ⑫地域の行事に参加している。
- ⑬地域のことについて調べたり、調べたことを発表したりするなどの学習に熱心に取り組んでいる。
- ⑭地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

##### 【令和3年度全国調査時の課題】

- 総合的な学習の時間において探究の過程(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)を意識した授業が展開されている。各学校で児童生徒に付けたい力を具体化し、学年に応じた取組をより一層進めていく必要がある。
- 地域の行事に参加する児童生徒の割合は高い。地域での経験や素材を各教科の学習においても取り上げることで理解を進めたり、学びを地域や社会での生活に生かす意識を高めたりする必要がある。

##### (4) その他

- ⑮普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使っていますか。(勉強のための携帯電話やスマートフォンを使う時間は除く)

##### 【令和3年度全国調査時の課題】

- 授業日(月曜日～金曜日)の家庭でのテレビゲームの利用時間が伸びてきている。スマートフォン等のICTの活用法や利用時間を含め、家庭と更に連携を深めていく必要がある。

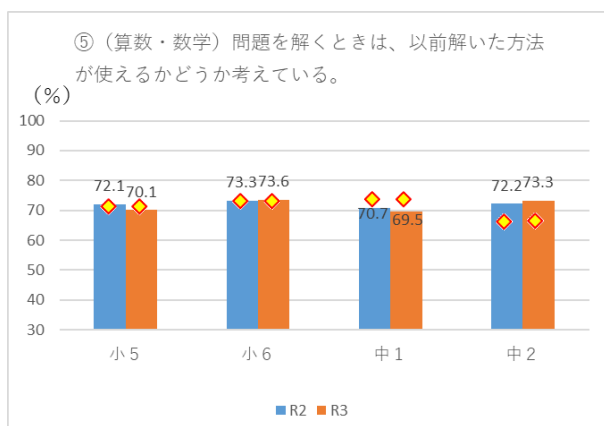
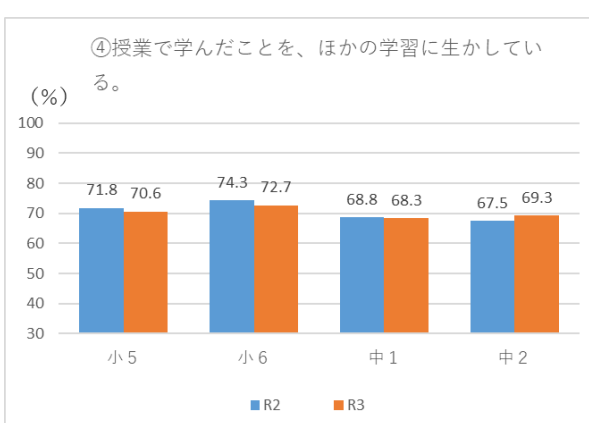
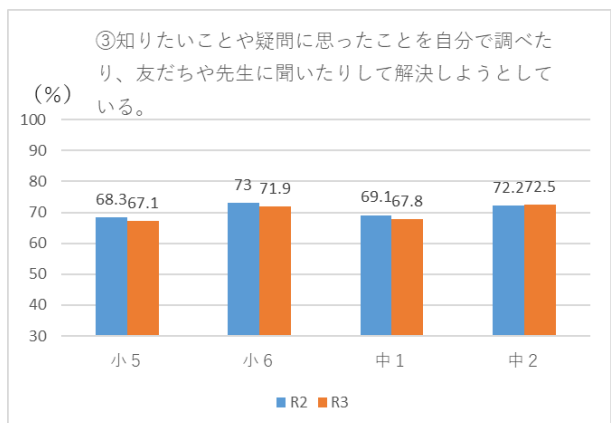
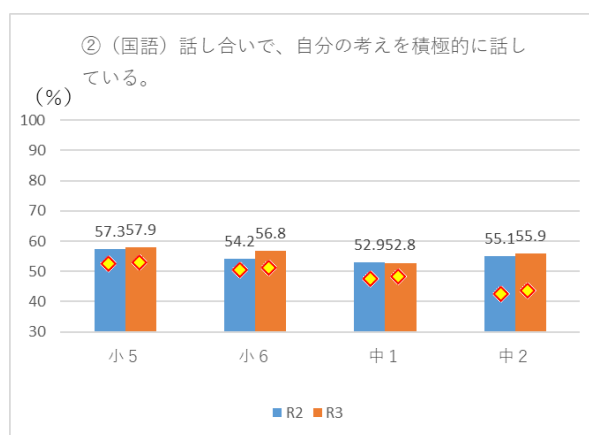
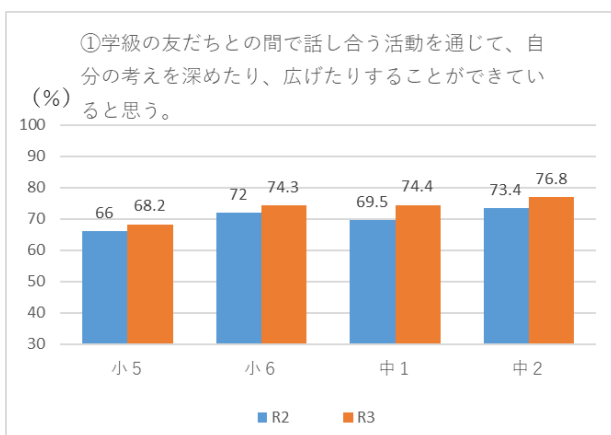
## 2 課題の改善状況

※数値は質問紙において「とてもあてはまる」「まああてはまる」と肯定的な回答をした割合。

※グラフの◆は、全国値を示している。◆のないグラフは県独自の設問。

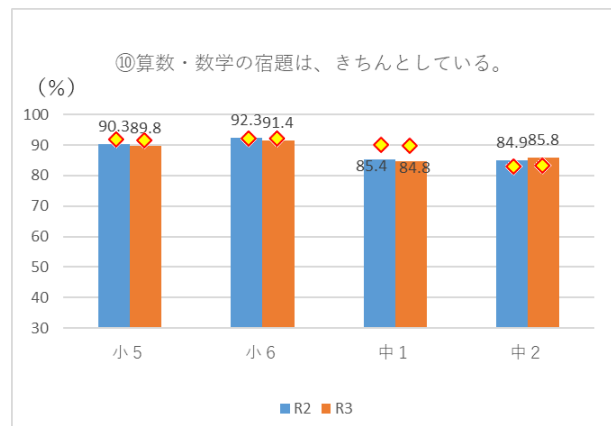
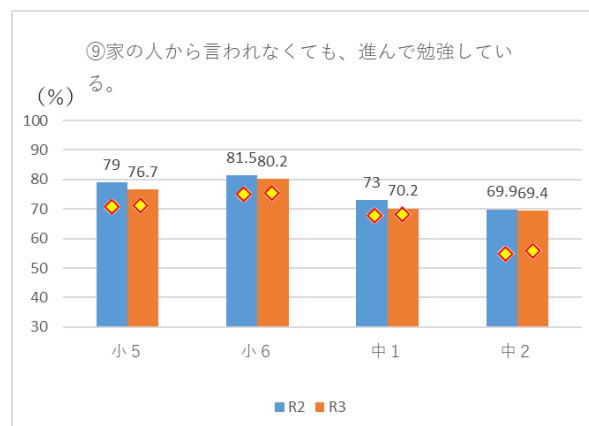
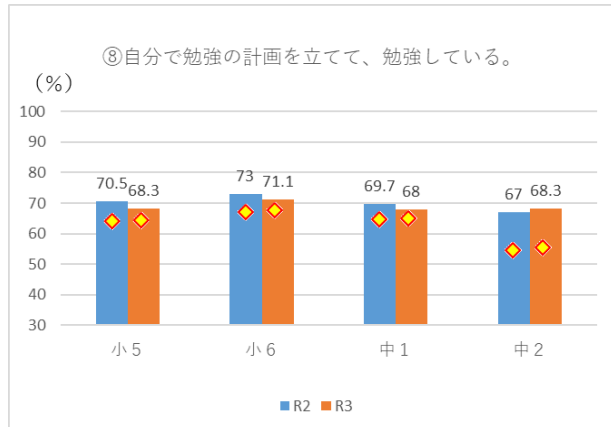
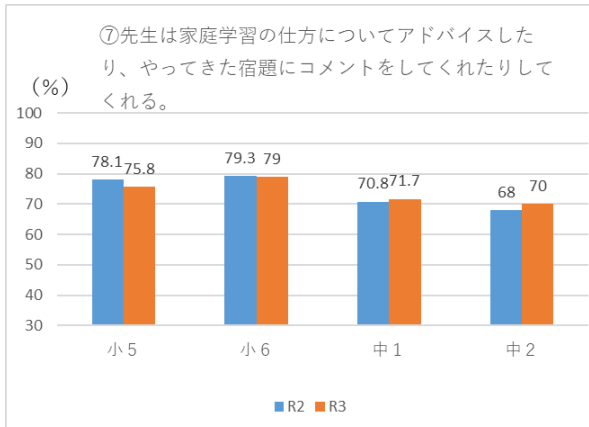
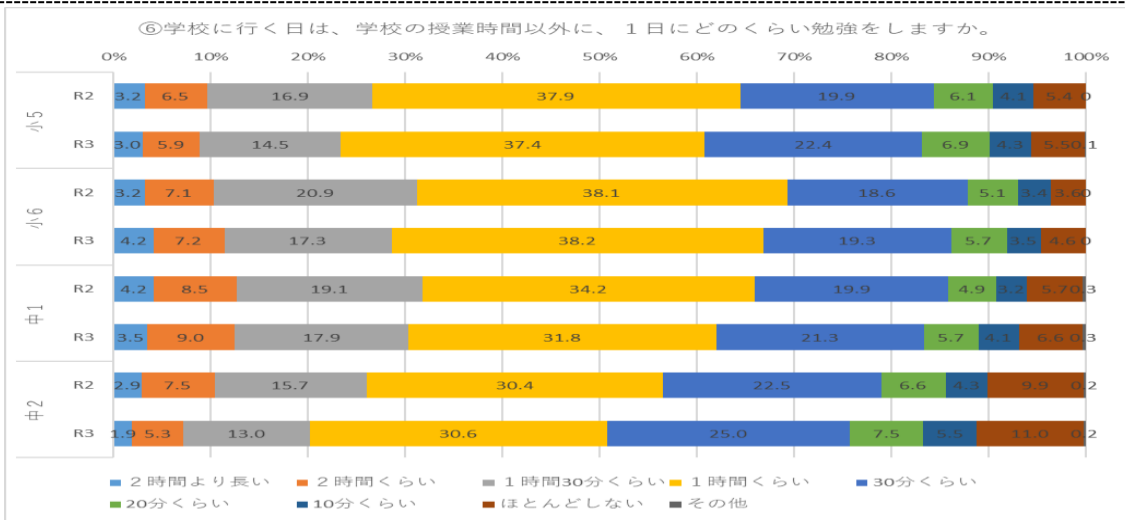
### (1) 授業の質の充実

- 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答している児童生徒が増えている。また、国語での話し合いで自分の考えを積極的に話す児童生徒が全国値に比べて高い。今後も日々の授業において、「話し合う目的や話し合いの視点を教師が具体的に提示し明確にすること」「個の考えを表現する時間と場を設けること」が必要である。
- 知りたいことや疑問に思ったことを自分で調べたり、友だちや先生に聞いたりして解決しようとしていると回答している児童生徒は小中学校とも学年が上がるにつれて増える傾向にあるが、小中学校間の接続時には減少している。単元の課題や本時のめあてを児童生徒の思いからつくる授業、児童生徒が「なぜ?」「どうして?」といった疑問を持ちながら意欲的に追究する授業を展開することで、主体的に学ぶ意欲や態度を育てていくことの重要性を、小中学校の教師が共通理解しながら指導していくことが必要である。
- 授業で学んだことをほかの学習に生かしたり、算数・数学で問題を解くときは以前解いた方法が使えるかどうか考えたりしていると回答している児童生徒は、小中学校とも上位学年になるにつれて高くなっている。今後は、教師が学習内容の系統性や関連性をしっかり理解し、児童生徒に既習の内容を意識させた指導の一層の充実を図る必要がある。



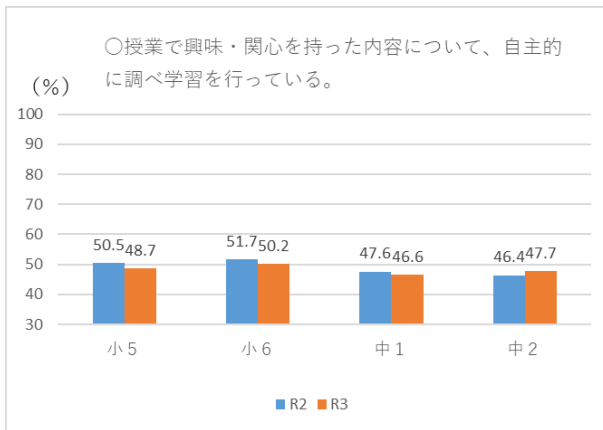
## (2) 家庭学習の充実

- 学校に行く日における学校の授業時間以外の1日あたりの学習時間は、昨年度と比べると1時間以上学習する児童生徒が減っている。学校では家庭学習の仕方についてアドバイスをしたり、宿題にコメントをしたりする取組が進められているが、1時間以上の家庭学習につながっていない。今後は児童生徒に対して家庭学習の意義を理解させるとともに、学習に興味・関心を持たせたり、宿題の出し方、内容などの工夫を図ったりすることで、家庭学習に対して主体的に取り組むことができる指導を一層充実させていく必要がある。
- 自分で勉強の計画を立てて勉強していると回答している児童生徒は、全国値よりも高い。今後も家庭において計画的に学習を進めることができるよう学習計画表をつくったり自主学習の手引きを示したりすることで、自らの学習を調整する力を伸ばすことができるように家庭学習指導の充実を図る必要がある。
- 家の人から言われなくても進んで学習していると回答している児童生徒は全国値よりも高く、算数・数学の宿題をきちんとしている児童生徒も全国値並みである。今後は、宿題だけでなく自主的な調べ学習などの取組につながっていくよう、家庭学習を見通した授業を展開することで児童生徒が進んで家庭学習に取り組めるような指導が重要である。



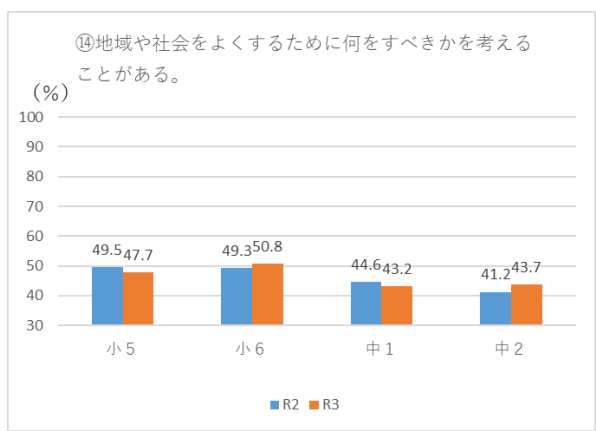
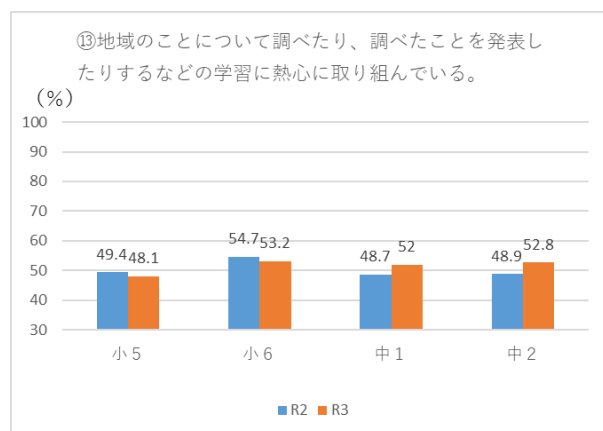
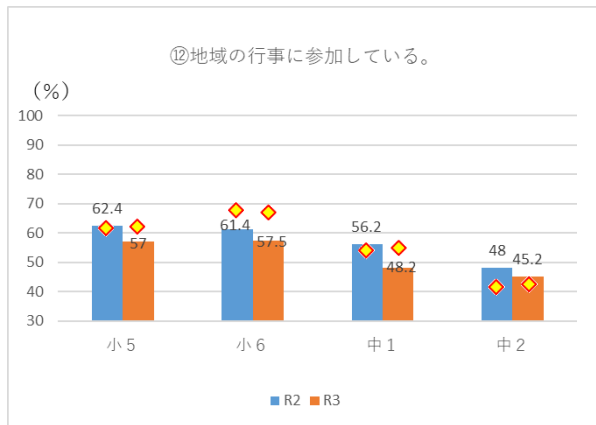
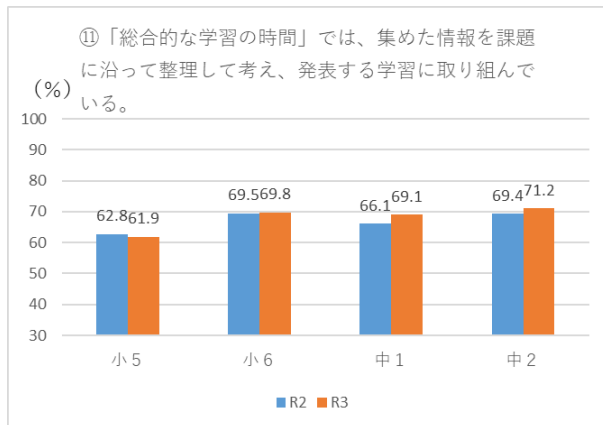


(参考)



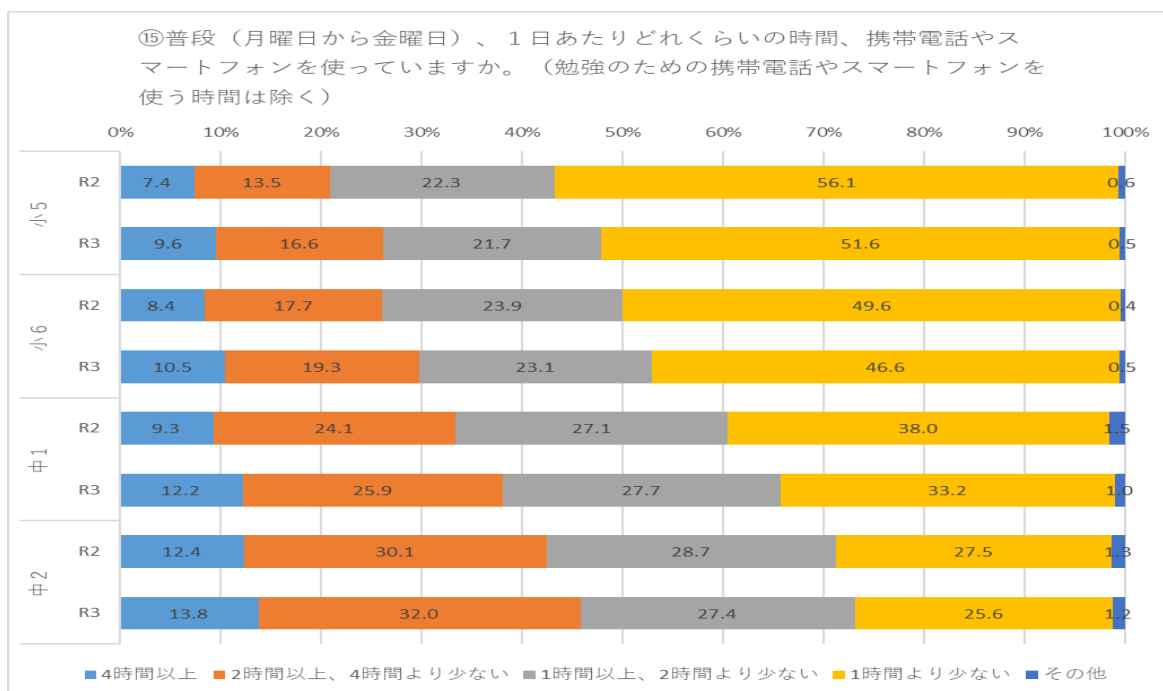
(3) 地域に関わる学習の充実

- 「総合的な学習の時間」において、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる児童生徒は小学校で昨年度並み、中学校では増えている。県内の小中学校で取り組まれているふるさと学習などにおいて、各教科等で身に付けた資質・能力を活用する学習を一層進めていくことが重要である。
- 地域の行事に参加していると回答している児童生徒は昨年度より減っている。コロナ禍において地域の行事に参加することは難しい状況にある。今後は、ICTを効果的に活用し地域のことについて調べ発表するなどの学習活動を展開することで地域貢献や社会貢献に対する意識が高まるよう、地域や社会とつながりながら授業を進めていく必要がある。



#### (4) その他

○普段（月曜日から金曜日）、1日あたりの携帯電話やスマートフォンの使用時間が2時間以上の児童生徒は昨年度に比べ増えており、学年が上がるにつれて一層増えている。家庭学習の充実、児童生徒の健康面などから家庭内での携帯電話やスマートフォンの使用ルールを含め、家庭と連携を深めていく必要がある。



## IV 今後の対応

### しまねの学力育成推進プランの推進

県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

### <今後の県教育委員会の取組>

#### ○授業の質の充実

- (1) 「**県学力調査結果分析を生かした授業づくり**」説明動画の作成、ポータルサイトへの掲載  
※国語、算数・数学、英語の授業づくりのポイントの説明  
(各校種 1 教科約 10 分)
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善プロジェクト事業 **授業デザインマップ**の作成・配付  
※県内 10 校の研究推進校の研究の成果を記載
- (3) **各教科等の指導の重点**の作成、配付  
※各教科等の指導のポイントを小中高別に記載
- (4) **授業チェックリスト**の作成、配付  
※「授業の質の充実」「家庭学習の充実」「地域に関わる学習の充実」の視点からのポイントを記載

#### ○家庭学習の充実

- (1) **家庭学習の意義・家庭学習を見通した授業づくり**について教育情報紙で周知
- (2) **家庭学習の指導事例**の収集・発信

#### ○地域に関わる学習の充実

- (1) 「**総合的な学習（探究）の時間**」ガイドブックの作成・配付、研修の実施  
※小・中・高の連携による一貫性をもった「総合的な学習（探究）の時間のあり方」を普及